

研究機関名：東北大学

| | |
|--------------|---|
| 受付番号： | 2013-1-480 |
| 研究課題名 | 視神経脊髄炎および多発性硬化症における脳 MRI 病変における比較検討 |
| 研究期間 | 西暦 2014 年 2 月（倫理委員会承認後）～ 2016 年 3 月 |
| 対象材料 | <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 脳脊髄 MRI および臨床情報） |
| 上記材料の採取期間 | 西暦 1995 年 1 月～ 2013 年 12 月 |
| 意義、目的 | <p>視神経脊髄炎の視神経炎は予後不良と考えられており、早期の治療介入が求められる。特に初発時には他の関連疾患との早期鑑別診断が重要であり、特に画像的特徴によって鑑別することが早期診断に繋がる事が期待される。</p> <p>本研究は、視神経脊髄炎、多発性硬化症とその関連疾患で視神経炎と診断された症例において、視神経や視床下部を含めた脳 MRI 病変の特徴を後方視的に検討し、視神経炎における画像診断の意義を明らかにすることを目的とする。</p> |
| 方法 | <p>対象は、東北大学神経内科および放射線科において MRI 検査を実施した視神経脊髄炎（50 例）、多発性硬化症及び関連疾患（50 例）。その病変分布の特徴を明らかにするとともに画像的特徴を後方視的に検討し、視神経炎の初期診断の補助となる画像的特徴を明らかにする。1995 年～2013 年までに東北大学神経内科のカルテおよび放射線診断科で保存している検査リストを参照し、視神経炎、多発性硬化症、並びに視神経脊髄炎の診断の元で検査されている患者を対象とし、その中で対象部位（視神経炎、視床下部病変、視神経周囲炎など）と撮像法（T2, FLAIR, ガドリニウム造影）を有する MRI 画像を用い、その病変分布並びに画像的特徴を検討する。放射線診断科 2 名および神経内科 1 名がそれぞれ判断し、その診断意義を検証する。</p> |
| 問い合わせ・苦情等の窓口 | 東北大学医学系研究科多発性硬化症治療学（神経内科） 仙台市青葉区星陵町 1-1 三須建郎 022-717-7189 |